



### 見沼たんぼくらのイベント

#### 見沼ふれあい農園づくり 2号地秋野菜栽培

本年度の見沼ふれあい農園づくり 2号地（緑区大字見沼 484）の秋野菜栽培が 9月5日（土）～11月15日（日）の間に5回に亘って実施しました。農園づくりの参加者を県民公募しましたところ多くの応募のため抽選となり、個人・グループ 55、人員 165 名が参加することになりました。栽培品種はキャベツ・カリフラワー・京菜・春菊・小松菜・蕪・大根（青首総太り・紅芯・聖護院・二十日）でありましたが、水害・虫害により京菜・小松菜・蕪がほぼ全滅となり、9月29日に当会役員により補充種蒔（小松菜代替に三十日大根）をしました。

農園づくりの開始前に7回に亘る準備作業－除草・耕耘・キャベツの苗作り・鶏糞・化成肥料散布・畝作り－が暑かった8月～9月初めに行われました。農園づくりの作業は、第1回目（9/5）は10時から作業開始のセレモニーの後、上記品種の種蒔を班に分かれ畝の上へ指示に従い丁寧に蒔きました。

第2回目（9/26）は除草だけでした。水害と虫害のため雑草のみの畝が可成りあり、二十日大根の早い成長のものの収穫期待は無残にも外れました。第3回目（10/10）は除草と二十日大根の一部収穫がありました。第4回目（10/31）は除草・大根類（二十日大根を除く）の間引き・春菊・京菜・二十日大根の一部収穫がありました。第5回（11/15）は予定日が雨のため1日延期し晴れの日曜日の収穫となりました。水害・虫害にも拘らずかなりの収穫があり、当日参加の全グループにカリフラワーは足りませんでした。他の収穫物については均等に分けてお持ち帰り頂きました。

全作業に参加した延べ人員は公募当選者・会員サポーター・県職員・当会役員合わせて 518 名、うち子供は 148 名でした。皆勤は 12 グループです。収穫の笑顔！ 来年度も。（若野 忠男記）

#### 第6回清掃ボランティア

11月3日の文化の日に、秋の恒例となった「見沼たんぼ清掃ボランティア」が開催されました。集合は、午前10時に見沼グリーンセンター前。集合時間の1時間前にはすでに10人以上の方が集まり、84人の皆さんの参加がありました。



「彩の国だより」を見て参加したというご夫婦は「福祉活動も考えましたが、最初から荷が重くなると長続きしないので、まずは自分たちのできるるところから始めたいと思いました。」と参加のきっかけを話してくれました。

活動は見沼の風車周辺と芝川沿いの一部を2班に分かれて清掃するというものです。夜半まで雨が降り続きましたが当日は秋晴れ、川沿いの草むらも思った以上に乾き、靴がびしょびしょに濡れるようなことはありませんでした。ただ、ごみは水分を含み、回収袋を持ち歩くのに苦労をした方も多かったようです。回収廃棄物は古タイヤほか空き缶、ペットボトル、空き瓶などが多数ありました。

2時間弱の活動終了後は飲み物と見沼ファーム 2 1 が見沼たんぼで丹精込めて育てた「ありがとう米」約2合が全員に手渡され、帰路へ。

今回は「地域活動に取り組もう」という研修テーマの下、多くの埼玉県庁職員の皆さんも集まりました。「少しでも人の役に立てれば有意義だし、楽しいものです。」とは男性職員の弁。

これからも多くの皆さんと一緒に、楽しみながら見沼たんぼをきれいにしていきたいものです。

（三上 雅央記）

# 見沼たんぼくらのイベント

## 第 63 回自然観察ハイキング

### 見沼自然公園とヒガンバナ自生地

去る 9 月 19 日（土）、見沼たんぼくらぶ主催で、ヒガンバナを中心にした自然観察会が行われた。

この日のヒガンバナはみごとであった。集合場所である見沼自然公園を出発し、見沼代用水東縁沿いを散策すると、花が水面に映りこんでいた。力



強く咲き誇る陸の花と儚い影としての水面の花。美しい対比であった。

ヒガンバナにはシビトバナ、ソウシキバナなど不吉な別名も多い。かつて土葬であった墓場を動物が荒らさぬよう、毒のあるヒガンバナを植えた。それが不吉なイメージの源となったのだろう。

また、田の畔や堤防にも植えられた。堤に穴をあけるネズミやモグラを、毒でもって退けたのだ。

一方で、ヒガンバナは救荒植物でもあった。毒を抜くことさえできれば、良質なでんぷんが採れる。それを餅のようにして食べたようだ。しかし、毒が抜けているかどうかは口を試みなければ分からない。まさに命がけで命を繋いだのである。

遠い昔のお話ではなく、ほんの七十年前、第二次世界大戦の食糧難の折にもヒガンバナを糧とした人たちがいたという。

奇しくもこの数日前、鬼怒川の堤防が決壊し、甚大なる被害をもたらした。

テレビに映し出された恐ろしいほどの光景を見ながら、堤防を守ろうとヒガンバナを植え、救荒植物として利用した先人たちの心を思わずにはいられなかった。その知恵と勇気が集落を守り、子孫の命を繋いだのである。

ヒガンバナの、ゆらめく炎のような色と姿。それは先人たちが守り、繋ぎたいと願った未来の命、現代を生きる人々の命の炎のようにも思えるのである。

（木戸口 美香記）

## 見沼ふれあい農園づくり

### 京芋・里芋・八つ頭・生姜栽培③

収穫祭が 11 月 16 日（月）に晴天のなか緑区見沼の畑で開催されました。見沼たんぼくらぶ会員 25 名及び福祉団体 31 名の総勢 56 名の参加がありました。

今年は少し荒れた新しい農地での栽培だったので秋の収穫が心配されましたが杞憂に終わり京芋、里芋、八つ頭、生姜いずれも豊作となりました。最初の土づくりから夏の暑い盛りの草取りなど地道な作業が功を奏して大収穫になったと思われま

す。当日は会員全員で 8 時 30 分から立派に生育した京芋、里芋、八つ頭の収穫に取り組み、12 時頃参加者に持ちきれないほどの芋を分配して終了



となりました。また、(社福)久美愛園、(社福)ななくさ大谷作業所、(社福)さくら草、(NPO)ともに生きる会さんごの皆さんも芋掘りに加わって里芋、八つ頭それぞれ一畝ずつ収穫をしていただきました。皆さん泥だらけになりながら里芋や八つ頭の土をへらなどで落として収穫を楽しんでいました。

なお、収穫祭に先立ち 10 月 27 日（火）にためし掘りを行い、この時に生姜はすべて収穫いたしました。

参加者は「初めて参加しましたがこんなに大量に収穫できるなんて驚いています。今日からしばらくは芋尽くしの毎日です」、「8 月にためし掘りで頂いた葉生姜が新鮮で美味しかったですね、やみつきになります。来年も参加したいです。」などと話していました。

（三上 雅央記）

# 見沼たんぼ地域の会員関係イベント

## 第12回さいたまみどりの祭典

今年度のみどりの祭典は10月18日(土)～19日(日)の両日、第12回さいたまみどりの祭典実行委員会・さいたま市主催により見沼たんぼの北東部に位置する北区にある市民の森に於いて開催されました。



この祭典のテーマを「みどりに親しみ、みどりから学び、みどりを育て守りましょう!」として、自然保護関連団体、農業・造園団体、学校関係などのほか、今回から福祉事業・同

協会による軽食の販売が行われ参加主体は24、テントは37張りにもなりました。

中央の催し会場では、オカリナ演奏なども行われ、会場の東側では気球への搭乗もありました。高所作業車体験・大宮アルディージャによるキックターゲットなどがあり多様な楽しみもありました。各ブースでは自然素材を材料とした草木づくりなど来場者参加型の催しでみどりを肌で感じるたのしい様々な体験を提供しました。特に、来場の子供たちは自分で又は母親・担当者との共働で作成した作品を笑顔で持っていました。来場者と担当者との対話も各ブースで見られました。また、活動状況や実態調査のパネルの展示も工夫されていました。



来場者数は両日で10,100名です。第1日目の天気予報が雨との情報も影響したようです。会場

近隣の方々が多いようでしたが、東京や近県からの来場も有りました。

明年度も同会場で10月第3週目の土・日曜日開催が予定されています。各ブースともより効果的なアイデアの基に催し・展示がなされ都市のみどりの保全・有効利用を共に考察する場となることを期待しています。

(若野 忠男記)

## 見沼たんぼ地域での市民が応援する 人と環境にやさしい都市農業 振興ビジョンの研究活動

未来遺産・見沼たんぼプロジェクト推進委員会

事務局長 北原典夫

### 見沼たんぼ地域での「未来遺産運動」

見沼たんぼ地域の歴史・文化、環境、農業、景観などの多様な価値を「未来遺産」として、100年後の子ども達に、素敵で豊かものとして伝え遺していくためには、いくつもの大きな課題があります。

### 最大の課題=農業の振興

その中でも、見沼たんぼ地域の主要な土地利用であり、中心的な産業である農業を豊かで魅力ある産業・農業文化活動として伝え遺していけるかは、この地域の未来遺産運動としての最大の課題です。このため、推進委員会では、昨年の未来遺産プロジェクトとしての認定・登録を記念して、2015年度の中心的な活動として「見沼たんぼ地域の農業振興」をテーマとして取り組むことと致しました。

### 「見沼農業振興のシンポジウム」を開催

見沼たんぼ地域の農業振興の在り方やビジョンを考えるには、この地域で活躍する農業経営者さん、農業体験活動など実施している市民団体の皆さん、また、見沼たんぼ地域の農業振興にかかわる行政機関の方々など、各界の方々のご意見と叡智を結集する必要があります。



このため、これまで4回にわたるシンポジウムを開催し、関係者のご意見を真摯にくみとり、今後、具体的に未来遺産運動として進めることのできるビジョンを提起したいと考えております。

# 見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

## 大宮氷川神社・勅使齋館

## 絵と解説 八木一郎

三の鳥居の南・参道東側に位置する「勅使齋館」。

8月1日例大祭当日には各町内の山車・神輿が境内に勢揃いして待機する中、御差遣された勅使がこの門から出発して神殿に進み祭儀が行われる。

一般にも結婚式の為に開放されており、私が訪れた日

(2014年9月21日)はお彼岸に加えて大安の良き日でもあり、新郎新婦の幸せそうな行列に3回ほど逢えた、良い一日でした。

(私も60年ほど前にお世話になりました)



## さいたま新都心駅の東西自由通路

旧国鉄大宮操車場跡地を再開発してできた「さいたま新都心」へのアクセスの為に2000年4月開業。

けやき広場をはじめ、アリーナ・行政・企業・シネマ街などが立地し、多くの乗降客で賑わう。

円形のアーチはモチーフとしては興味ある対象だが、デザインの対象としては苦心した次第。



「道」  
(見沼自然公園)

緑の木々の豊かな公園の木陰を求めて、筆をとる。右方の濃い緑葉の樹は「エノキ」、左方の葉と気根に特徴のあるのは「ラクウショウ」(別名ヌマスギ)。

濃い緑の中の新緑の爽やかさ、刻々変わる木漏れ陽の印象をどう画面に表現するか、いつまでたっても難しい。

## 見沼たんぼくらぶ会員作品展

## 浦和くらしの博物館民家園

作者 長塚文明



国道463号線が芝川を渡る念仏橋からすぐの所に民家園があります。江戸時代以来の茅葺き屋根の農家や商家などの古民家が並び、屋敷の屋根裏の太い柱や梁、土間の利用の仕方や古い農機具も見ることが出来ます。

白い倉庫の隣の池には古代ハスがたくさん咲くことでも人気があります。2014年8月5日は暑い日でした。古代ハスの花は終わっていましたが、南側に広がるサトイモ畑を前景にして、旧野口家住宅を描いてみました。

# 見沼たんぼ探訪記

## 見沼代用水東縁の彼岸花

9月中旬、見沼たんぼを流れる見沼代用水東縁の加田屋地区を散策すると、代用水の桜並木に沿って彼岸花が自生しており、堤の法面をどこまでも赤く飾っている。

丁度、青空の下で満開の時を迎えており、真紅の花の色は目の奥にまで焼き付くほどで実に素晴らしい。黒いアゲハ蝶が大きな羽を一杯に広げ、2匹3匹と密を求めに飛んできて、近くの花に止まっては、また別の花に飛んで行く。

花を見ながらゆっくりと歩く人、花の状態に好奇心を持って近づく人、スケッチブックに描きとめている人・・・と、楽しみ方も色々だ。

その昔、ここは「坂東桜」と言われた桜並木があった所である。しかし、戦後の物不足の時代に燃料用の「薪」として坂東桜はすっかり切り倒されてしまったという。その後、年号が平成と改まったのを



機に、心ある有志の皆さんが協力し合って植樹し、「平成桜」として生まれ変わった所である。今ではその時植えた「苗」も大層大きく成長し、春を迎えると桜のトンネルが出来て、桜吹雪の中を多くの人で賑わう所となっている。

彼岸花は「曼珠沙華」とも呼ばれており、ヒガンバナ科の多年草の球根性の植物である。タマネギ状の鱗茎にはアルカロイドを多く含んだ有毒植物であり、水田の畦や河川等の堤防に植えられているのをよく見る。モグラ、ネズミ、虫等が、水田や堤防に穴を作って荒らすので、彼岸花を列状に植えて、こうした動物の侵入を避けているのである。

見渡す限りこの辺りの田んぼは収穫期を迎えて黄金色一色に染まり、はるか遠くまで広がっている。1本1本の稲穂を注意して観るといかにも重そうで、しっかりと実った稲穂を弓型に大きく垂れている。この分でいくと、今年は豊作の年となることであろう。  
(召田 紀雄記)

## 合併記念見沼公園を訪ねて

今から8年前に岩槻・大宮・与野・浦和4市合併を記念して自治医大医療センターの南側に誕生した公園です。

見沼たんぼ地域の広範囲を自然公園として保全しようというセントラルパーク構想の先行公園として、さいたま市が休耕田の荒地を整備して造成したものです。

「見沼田圃に蘇る生き物たちのふれあいと新しい市民交流の創造」をテーマとして、沼沢や芝生広場と樹林地を配置、動植物の観察からピクニックまで幅広く楽しめる公園です。

開園日：2007年（平成19年）11月4日

面積；3.9ヘクタール

施設：芝生広場、沼、小川、木道、園路、管理棟、遊具、駐車場

当公園の管理者は公益財団法人さいたま市公園緑地協会で、運営はセントラルパーク市民協働会議が当たっています。

当協議会は、さいたま市公園緑地課等行政と地元の自治会・市民団体・学校と公園緑地協会で構成されています。

晩秋、幾度か当公園を訪れました。

芝生広場では、幼児を遊ばせる母親のグループが多いのに驚きました。沼では、留鳥のカル



ガモと冬鳥のキンクロハジロが、それぞれ群を作って泳ぎ回っていました。落葉低木はそれぞれカラフルな果実（紫・白・赤・紅）で野鳥を誘っていました。

(小野 達二記)

# 見沼たんぼの仲間たちNo.36

## 社会福祉法人ななくさ 多機能型大谷事業所

- ・ 就労移行支援事業
- ・ 就労継続支援B型事業
- ・ ななくさ特定相談事業

砂原 茂

当事業所は「働く」をテーマに平成12年に開設した就労支援の福祉施設です。

就労移行支援事業では、2年間という期限のもと、一般企業への就職を目指す事業所となります。利用者の皆さんのしょう害は様々ですが、自分の強みを生かして、日々活動しております。

内容としては、作業訓練を通して、働くときのルールやマナー、気持ちなどを学んでいます。作業以外では、就職活動に際しての、ハローワーク登録など必要な機関の登録や履歴書の書き方、面接の練習などを行います。また、就職した際の仕事のマナーなども皆で話合う事があります。

そして、就労移行支援事業では、就職した後も、各就労支援センター等と協力して、働き続けられるよう支援しています。



就労継続支援B型事業では、作業活動を通して自立生活に向けた力を養ったり、集団生活を通し日常生活習慣や協調性を身に付けたりと、色々なニーズを持った方達にご利用頂いております。

活動内容は、月曜日から金曜日まで作業中心。

作業は、室内・ハウス作業、清掃作業を行っています。



室内では、軽作業を数種類組み合わせて1日5時間程度作業をします。ハウス作業では、葬儀等で使用する菊の花を祭壇に飾れるように制作したり、百合の開花管理（温度や水の管理）をしています。また、季節に応じた鉢花栽培を行い、販売をしています。

その他、畑で野菜作りや除草作業を行っています。霊園清掃は、さいたま市の思い出の里の3区画分を、「大谷事業所」、「あざみ・そめや共同作業所」、「やどかり情報館」の4施設共同で受注している仕事です。

以上のように作業を中心とした活動していますが、毎日作業だけですとやはりつらいものです。大谷事業所では、行事など作業以外の活動も行っています。

毎月、第三水曜日にはクラブ活動（運動・陶芸・調理・合唱・パソコン・美術）を行っています。そして、お花見や夏祭り、一泊旅行、クリスマス会等その時期に合わせた行事を開催しています。

大谷の地域の行事にも多くお誘いを頂いており、大変感謝しております。毎回参加させて頂いており利用者の方の楽しみとなっています。地域の皆さんと協力してこれからも活動して参ります。

お花等も随時販売しておりますので、お気軽にお問合せ下さい。

電話 048-683-8440まで。

# 見沼たんぼを支える農家さん

## 「あすま緑化園」秋山富士雄さん

三室中学校から東に向かうと、道の両側に根を巻かれて出荷を待つ大小様々な木々がずらりと並んでいます。ここは「あすま緑化園」の出荷場。



( 秋山富士雄さん )

師走の初めのお忙しい中、仕事で全国を飛び回っておられる社長の秋山富士雄さんにお話を伺いました。

秋山さんのところもお父さんの代までは主に米や芋を作っていました。富士雄さんの代から植木に転換。街路樹やマンション、学校、病院や商業施設などの植木を栽培。主に関東諸都県や大阪、名古屋などに出荷しています。

「見沼たんぼ」と呼ばれてはいても、今では田んぼは名ばかりでむしろ植木畑を思い起こす人も多いのではないかと思います。ところが、その植木畑も減ってきているのだそうです。その原因の一つが「盛土」。

元々見沼は湿地、盛土されると隣接する農地は水捌けが悪くなったり、土の重みで土中の排水管が壊れたりして排水ができなくなってしまいます。すると植木は根腐れしてしまうのだそうです。

水に強い品種を選んでも枯れてしまうほど、事態は深刻になっています。建設残土や産業廃棄物を含んだものまで、残土問題はこれまでも見沼の重い課題でした。盛土については高さ制限などの

規制もありますが、守られていないことも多いと聞きます。

高齢化が進み、後継者のいない農家にとって、草刈りなど農地の管理は重い負担となっています。そこに、無料で土を盛って貸農園として利用できるようにしてあげますよ、という残土処理業者の甘い言葉。農地が「縛り」でしかないような状況をなんとかしなければならない。

直面している人でないと分からない部分が多いので、理解を得るのは難しいけれどね、とゆったりと語る秋山さんは、どこかどっしりとした木を思わせます。

今見沼では市民農園や体験農園が点在していますが、これをまとめて農業者の耕作地とは別にゾーン分けする、必要に応じて規制緩和してトイレや駐車場などを作り市民が利用しやすいようにし、また優良農地を残して不良のところは違う利用ができるようにすることが、今後の見沼の農地を守ることにつながる、と秋山さんは云います。



( 出荷を待つ木々 )

かつての見沼は田んぼの縁にハンノキがあって、木陰と稲架掛け用の柱として利用されていたそうです。秋山さんの話を聞きながらそんな、ハンノキのある風景が再び甦るのが見えるような気がしました。

(取材：島田・高橋、 記：高橋)

あすま緑化園：さいたま市緑区馬場 2-35-3、  
Tel.048-873-9925

## 見沼たんぼくらのイベント案内

### 第105回見沼塾『見沼たんぼの野鳥』

日時：2月14日（日）9時～12時  
集合地：東武アーバンパークライン（野田線）  
大宮公園駅前（解散地：大宮公園）  
観察地：大宮公園、芝川、大宮第三公園  
申込み：当日、集合地で8時30分から受付  
参加費：¥500（ただし、会員は無料）

### 第64回見沼の自然と史跡を訪ねて

日時：3月21日（月・振休）9時～12時  
集合地：JR武蔵野線東浦和駅前広場集合  
協力：NPO法人自然観察さいたまフレンド  
コース：東浦和駅前⇒見沼代用水西縁⇒見沼通  
船堀公園⇒見沼通船堀西縁⇒鈴木家住宅⇒芝川  
⇒水神社⇒見沼通船堀東縁⇒木曾呂の富士塚⇒  
川口自然公園⇒東沼神社⇒見沼自然の家⇒芝川  
第一調節池縁⇒浦和くらしの博物館民家園  
申込み：当日、集合地で8時30分から受付  
参加費：¥500（ただし、会員は無料）

## 会員の主宰するイベント情報

### 第234見沼たんぼの自然観察会

日時：1月17日（日）9時30分～12時30分  
集合・解散地：大宮第二公園南管理棟  
主催：NPO法人自然観察さいたまフレンド  
テーマ別グループ行動①木の冬芽と野草の越冬  
②冬のバードウォッチング  
申込み：当日、集合地で9時から受付  
参加費：¥500（ただし、中学生以下無料）  
交通：大宮駅東口からバス⑦「芝川」下車北側  
大宮発 8:35 or 8:55（約10分乗車）

### 見沼スケッチ会 第9回水彩画展

日時：2月29日（月）～3月6日（日）  
9時30分～17時  
（ただし、初日12時より、最終日15時まで）  
会場：さいたま市氷川の杜文化館展示場  
主催：見沼スケッチ会  
内容：見沼の風景を主なモチーフに約75点  
交通：大宮駅東口から徒歩約12分、氷川参道  
問合せ：携帯 090-9204-5590 八木

## 見沼たんぼくらぶ入会を勧めます！

見沼たんぼをもっと知りたい  
見沼たんぼの自然にふれてみたい  
見沼たんぼで何かしたい  
見沼たんぼの保全に協力したい  
そんな皆さまをお待ちしています！

■ 季刊『みぬま通信』をお届けします。  
4月・7月・10月・1月発行

■ 埼玉県土地水政策課の支援のもとに、見沼  
たんぼ地域の里やまで、様々の体験事業を  
展開しています。子どもから年寄まで気軽に  
楽しめるイベントです。

○…見沼ふれあい農園づくり

農地はスタッフが耕運し、畝づくりを済ませ、種蒔き・植付から除草、収穫までの作業です。

「京芋・里芋・八つ頭栽培」や「秋野菜栽培」  
などを楽しみ、福祉施設にも寄贈しています。

○…自然観察ハイキング

自然観察指導員のガイドで、年4回、史跡を  
巡りながら花や鳥など見て回ります。

○…見沼たんぼ清掃ボランティア

○…斜面林の体験学習

○…見沼塾―見沼の自然や文化を学ぶ講座

■ 年会費 個人（同居の家族単位）・団体・  
企業とも1口¥1,000（団体・企業は  
3口以上）

## みぬま通信第65号

発行日 平成28年月1月1日  
発行所 見沼たんぼくらぶ  
〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町  
1-2124-3 小野方  
TEL・FAX (048) 683-1764  
E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp  
URL <http://minumatanbo.web.fc2.com/>  
© 2016 Minuma Tuusin